

無 聖

第78号

宮城県曹洞宗青年会 創立50周年記念祝賀会

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| ◆ 「護り伝えん 御仏の道」
会長 長谷川 俊昭 …………… 2 | ◆ 平成30年度会員大会報告…………… 10 |
| ◆ 第24回チャリティーバザー報告…………… 3 | ◆ 第25期移動研修会開催…………… 10 |
| ◆ 「慰霊行脚」報告 …………… 4 | ◆ サンタピアップみやぎ活動報告 …… 12 |
| ◆ 傾聴ボランティア活動報告 …………… 5 | ◆ 事務局だより …………… 12 |
| ◆ 宮城県曹洞宗青年会
創立50周年記念事業 …………… 6 | ◆ 境内の猫たち …………… 12 |
| ◆ 50周年企画「歴代会長を訪ねる」 …… 7 | ◆ 今後の予定 …………… 12 |



会長挨拶

護り伝えん 御仏の道

第25期会長 耕徳寺 住職 長谷川 俊昭

光陰は矢より迅かなり。
第二十五期宮曹青会長を拝命し早いもので二年の任期を迎えました。

挨拶に先駆けて、昨年十一月の宮曹青創立五十周年記念式典・講演会開催ならびに記念誌発行に際し、県内御寺院様・特別会員皆様のご理解と多大なるご協力を賜りましたこと衷心より感謝を申し上げます。

創立五十周年の節目を迎えた今期「護り伝えん御仏の道」をスローガンとし、そのみ教えを護り伝える体現者となるべく取り組んで参りました。今年度後半の活動を振り返ると

○カンボジア教育支援チャリティバザー

九月十日、二十四回目を迎えたチャリティバザーは七教区御寺院様のご高配と多大なるご協力を頂戴し「富谷市成田公民館」を会場に開催致しました。趣旨に賛同した来場者皆様のお気持ちに感謝とこの活動の意義を再認識するバザーとなりました。

○北海道胆振東部地震復興支援募金活動

九月十八日仙台市内街頭にて会員二十五名で募金活動を行い多くの皆様から温かいお気持ちを寄せ頂きました。被災地にご自身の東日本大震災の経験を重ね我ごとくのように察せられる方々や北海道ご出身の方から現地の様子をお聞かせ頂き、一日も早い復興と被災された方々の心の安寧をご祈念しご通行の皆様にお呼びかけを行いました。

○創立五十周年記念事業

記念式典・講演会

十一月三十日仙台サンプラザを会場に宮城県曹洞宗青年会創立五十周年記念式典・講演会をご来賓の諸老師はじめ会員百三十一名の出席を頂き開催致しました。

一部・記念法要では仏祖諷経、物故者慰霊諷経が厳修され、続く式典ではご祝辞として創立の経緯、運営の変遷、そして青年僧侶への提言を温かいお言葉で賜りました。出席者一同がその歴史の重さ、それぞれが僧侶としての使命について肝に銘じるとともに、諸先輩老師が受け継ぎ伝えられた志を私たちも責任を持って相承していくお誓い場となりました。

第二部記念講演会では、花園大学教授佐々木閑先生をお招きし「出家とはなにか」と題しご講演を頂きました。

た。仏教の成り立ち、教えを正しく布教していくことの重要性を示され、さらには「出家」の意義を深く学び、儀礼の簡略化・価値観の変容が進む社会からより信頼される僧侶がいま求められていると説かれました。論理的かつ明解で時にユーモアを交えたお話に一同引き込まれ、僧侶としてのありようを再認識し、これからの道しるべとなる貴重な講演を頂きました。

○記念誌発行

宮曹青の歴史を紐解き、事業や活動をまとめたこの記念誌が、五十年という歳月に刻まれた研鑽の記録として、その伝統が相承された証として後世の会員へ貴重な資料、指針となることを信じております。

この度の発行に際しご寄稿、貴重な写真をお寄せ頂いた皆様に深く感謝を申し上げます。

○年次総会

十二月十九日、ホテルグランテラスにおいて次期会長以下の三役が承認されました。

第一教区清涼寺神作紹道師が会長に選出され、第二十六期への抱負を述べて新執行部、門出の日となりました。

○会員大会

二月二十日、会員相互の交流と親睦を目的に会員大会が開催されました。第一部では東北大学大学院教授鈴木岩司先生を講師に迎え「イエ亡き時代の死者、生者、そして寺」と題し、葬送を取り巻く環境の変容についてデータをもとに分かり易く展開された大変示唆に富んだご講演を頂きました。第二部ボウリング大会、第三部懇親会とも多くの皆様に参加を頂き、会員の垣根を越え交流懇親のひと時なり盛会に終えることが出来ました。

○第二十五期移動研修会

二月二十七日～三月一日、今期研修会テーマ「参禅弁道」の集大成として徳島県又六寺様、愛媛県瑞應寺様へ拝登させて頂きました。坐禅を抛り所に地域信仰の場となっている御寺院様の山風を目の当たりにし、あらためて自身の日常底振り返り、不断の参禅弁道こそが宗匠としてのあるべき姿であると心に刻む移動研修となりました。

○傾聴活動「ひと息」

三月五日南三陸中央住宅集会場において「ひと息」を開催致しました。強風にもかかわらず、朝から近隣にお住まいの方々に部屋を暖めて頂き「待ってたよ」と声を

かけられお互いがその笑顔にホッとすると、そのようなお付き合いに支えられ活動が続けられております。会話の中で、住み慣れた土地に帰って来ても「生活がもどかるとはいい」という言葉に復興の難しさを実感し、この活動をお互いの憩いの場となるよう続けて参りたいと強く思う日となりました。

○東日本大震災被災地慰霊行脚

三月十一日、当日の荒天に慰霊行脚を断念し大川地区ご寺院様、霊園各所においての慰霊法要を県内外問わず多くの方々と共に厳修させて頂きました。

「記憶の風化」が危惧されているいまこそ、僧侶としてこれからもより一層心を寄せ、行持し続ける決意をあらたに致しました。

○サンタピアップみやぎボランティア会

今年度は、十二月十二日～十四日泉セルバでのカンボジアフェアに加え、十年ぶりに一月二十三日～二十五日藤崎百貨店前でのカンボジアフェアを開催し多くの皆様にご来場頂き、さら広く活動をPRすることが出来ました。

ハガキリサイクルキャンペーンでは、新しくリサイクルボックスを作成配布、さらには、教区単位での提供周知の結果、二万枚を超える書き損じハガキをお寄せ頂きました。

ハガキ、切手は年間を通し収集おります会員皆様のお声かけで、支援の輪をさらに広げて頂きたく存じます。ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、今期は「護り伝えん御仏の道」をスローガンとし諸先輩老師が情熱を注がれ、伝えられた一つ一つ行持、活動の意義を深く学び、そしてさらに会員共々に、そのみ教えを護り伝える体現者となるべく様々な角度から青年僧侶の将来像、ありようを一心に模索、取り組み続けた二年間でありました。これも偏に、県内ご寺院様の深いご理解とご協力、

諸先輩老師の指導き、ご寺院様方のお支えの賜物と感謝の念に堪えません。

宮曹青は期が代わりましても、志を相承し直向きに勝友たちと切磋琢磨し合い、一歩一歩着実に歩を進めて参ります。県内御寺院様には何卒、今後変わらぬご法愛、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

合掌

カンボジア教育支援

第二十四回チャリティバザー報告

二十四回目の開催となったカンボジア教育支援チャリティバザーを、会場教区として快くお引き受け頂きました第七教区のご寺院様はじめ、青年会様、寺族会様、協力団体様のご理解とご協力のもと無事開催することができました。七教区の皆様には半年以上も前より準備を進めて頂き、会場の選定や広報活動など多大なるご尽力を頂きました。当日の天候が雨にも関わらず、大勢の方に来場頂き全商品を完売できましたことは、偏にご協力頂きました皆様のおかげと深く感謝申し上げます。お話を伺うとリピーターのお客様も多数おられ、遠方から朝早くお越し頂いているようで感慨深いものを感じられました。

また、インカムを使用することで外と中の連携をうまく取れたこと、協力企業様が悪天候にも関わらず、駐車場の誘導をスムーズに行って頂き事故等もなく無事終えることが出来ました。

今期の宮曹青のスローガン「護り伝えん 御仏の道」という思いのもと、バザーに向けて会員一丸となり準備に準備を重ねてまいりましたが、確認不足等があり各部署にご迷惑をおかけいたしました。今度の反省を次期に活かせるよう伝えてまいりたいと思えます。

最後になりましたが、西日本豪雨災害、北海道地震災害の被災者の方々の一日も早い復興を心より願ひ、総括いたします。



開催日時	平成30年9月10日(月) 午前10時整理券配布、午後12時30分開場 午後1時30分(販売開始)～午後2時30分(販売終了)
開催会場	富谷市成田公民館(会場教区：第7教区)
参加者	156名(前日準備含む延べ人数) ・9月9日(準備会)合計87名 (内訳:宮曹青会員68名、会場・第7教区(寺族会)9名、協力企業(花そう・清月期)10名) ・9月10日(当日)合計69名 (宮曹青会員55名、会場・第7教区(寺族会)3名、協力企業(花そう・清月記)11名。)
来場者総数	210名
販売商品数	5,556名
総売り上げ	1,289,400円 (商品売り上げにエコバック売り上げを含む金額) ※売上金は、全額サンタピアップみやぎボランティア会へ寄付
商品売り上げ	1,280,700円
エコバック売上	8,700円
会場募金	37,713円 (北海道胆振東部地震復興支援として)
サンタピ会場募金	43,019円

『慰霊行脚』報告

開催日時 平成三十一年三月十一日(月)

場所 慰霊行脚 石巻市 大川地区
慰霊法要 石巻市 旧大川小学校

随喜者 三十五名

(内訳：宮曹青十九名 全曹青・他県曹青十六名)

○慰霊行脚

※集合場所海蔵庵別院様からバスで移動

○慰霊法要

海蔵庵様別院～龍谷院様～釜谷霊園～観音寺様～旧大川小まで
大川小学校遺族会主催
導師十二教区龍谷院住職 齋藤文隆老師

けていかなければならないという意を強くいたしました。
最後に、今回遠方よりご随喜頂きました全国曹洞宗青年会、いずも曹洞宗青年

会、山形曹洞宗青年会、秋田県曹洞宗青年会、Teamおきたまの皆様にご心より感謝申し上げます。



観音寺にて



龍谷院にて



海蔵庵にて



釜谷霊園にて

震災から八年を迎える三月十一日、県内外から三十六名の方にご随喜賜り、大川地区での慰霊法要を修行いたしました。

当日は台風並みの低気圧による荒天のため、行脚を断念しバス移動で海蔵庵様別院、龍谷院様、釜谷霊園、観音寺様にて諷経のみ行方となりました。

更地が多く広がる大川地区は、震災前まで至って普通に人々の暮らしがあった場所です。

震災前の景色に思いを馳せるとともに、ふるさとを失った人たちの心の傷はどれほどだろうと、想像すらいけない思いで諷経を挙げました。

女性の方がこのように仰っておられました。

「震災後、色んなところで皆と童謡ふるさとを歌う機会が数多くありましたが、歌詞が住んでいた町並みそのままで、震災前を思い出して辛くて歌いたくありませんでした。いま8年経ってやっと少しずつ歌う気にもなってきましたし、当時のことも語る気持ちが起きてきたところです。」

道路や住居等の設備面は整ってきても、ふるさとを失った方々の心の復興はまだまだこれからだと痛感させられました。

宮城県の宗侶として、これからもより一層被災地の方々に心を寄せて活動を続

宮城県曹洞宗青年会 傾聴行茶活動 仏一息活動報告

ほっとひといき

◎日時・活動場所／平成三十年八月八日(日) 十六時より 志津川復興住宅
◎活動内容／お茶会、流しそめん、教化指導員(Berbraveによる)演劇
正会員 十四名 東京大学学生数名 来場者三十名

今年度第一回目の傾聴行茶活動「仏一息」を志津川復興住宅にて行いました。復興住宅での仏一息は初めての試みではありましたが、仮設住宅でお会いしていた懐かしい住人の方も多くご来場くださり、久しぶりの再会に会話も弾み、私たちを温かく迎えてくださいました。当日は悪天候の中ではありますがたくさんの方々に来場いただきました。

今回はかき氷や学生によるヨーヨー釣り、Berbraveによる演劇など大いに盛り上がりました。

今年度は年明けにもう一度予定しておりますので、参加者の方々の憩いの場、安らぎの場になるように精一杯努めたいと考えております。

今回参加いただいた皆様大変ありがとうございました。

「ボランティア委員長 長尾靖樹」



宮城県曹洞宗青年会 傾聴行茶活動 仏一息活動報告

ほっとひといき

◎日時・活動場所／平成三十一年三月五日(金) 十一時より 志津川復興住宅
◎活動内容／炊き出し(献立：うどん)、傾聴活動・正会員 十一名・寺族一名・来場者二十名

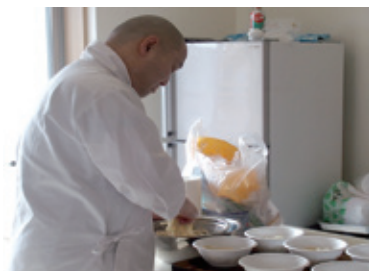
今年度第二回目の傾聴行茶活動「仏一息」を志津川復興住宅にて行いました。当日は、風が強く寒い中での開催ではありましたが、懐かしい住人の方々もご来場くださり、久しぶりの再会に会話も弾み、私たちが温かく迎えてくださいました。南方の仮設住宅での朝の体操も継続されているようで、終わってからお茶のみをしているようでもそのままお待ちいただいた方々もいたようでした。皆さんお元気そうでした。

参加者の方が「ここは山を整備して作ったので風が強くとても寒い。」とおっしゃっていました。住み慣れた街に帰ったにもかかわらず、以前の生活には戻れていないのだと改めて実感しました。

2年間、委員長として活動をさせていただいてまいりましたが、たくさんの方々とご縁があったこと、私自身いろいろと勉強させていただきました。

皆さんのご協力・ご支援があり何とか無事活動を終えることができました事、心より感謝申し上げます。

「ボランティア委員長 長尾靖樹」



宮城県曹洞宗青年会 創立五十周年記念事業

譲り伝えん 御仏の道

開催日／平成三十年十一月三十日（金）
会場／仙台サンプラザホテル
参加人数／百三十一名（内訳：来賓二十六名、正・賛助会員八十名、特別会員二十六名）
内容／第一部 記念式典、第二部 記念講演会「出家とはなにか」講師 花園大学教授 佐々木閑先生、第三部 記念祝賀会

記念式典・記念講演会総括

平成三十年十一月三十日（金）、宮城県曹洞宗青年会創立五十周年記念事業が仙台市宮城野区仙台サンプラザを会場に開催されました。

第一部は記念式典が行われ、御来賓各位、当会 正・賛・特別会員参加のもと仏祖諷経、会員物故者追悼法要、祝辞と続きました。祝辞では宮曹青初代会長、金田諦典老師より創成期の宮曹青や当時の状況等をお話いただき、また青年僧への策励の言葉も頂戴いたしました。

第二部はNHKテレビ「100分00名著」の解説者で知られる花園大学教授、佐々木閑先生を講師に招き「出家とはなにか」と題した記念講演

が開かれました。仏教誕生の背景、仏教の世界観や目的、組織論など非常に分かりやすくユーモラスに語っていた



るように見受けられました。多くの人が多くの時間をかけ、記念事業に向けて入念に下準備をされましたので、成功裏に終わることを確信しておりましたが、開催が近づくにつれ気づくことや、直前の変更点などもあり気を揉みました。しかし、その緊張感が皆の団結力に繋がりを、五十周年事業、全ての成功に繋がったと感じております。

今大会開催にあたり、ご支援ご協力いただきました県内御寺院様はじめ関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

〔神作紹道〕

主に記念誌と当日の祝賀会を担当させて頂きました。

記念誌の刊行に当たり、まずもって表紙と内容をどうするかという点を広報編集委員会の皆さまと進めてまいりました。

表紙に関しては過去の記念誌を参考にしながらも、五十年の節目に発刊する重要性、青年会らしい記念誌にしたいと思い、単純に飾っておきたい、いつまでも残しておきたいデザインをと心掛けました。老師に揮毫頂く、写真を使用するという案もありましたが、今回ご縁を頂きまして井上純さんにデザインをお願いすることになりました。井上純さんは二教区理事の井上寛尚師の実弟で世界を舞台にご活躍されている新進気鋭のデザイナーです。そのような方にご依頼できる機縁を頂いたこと、そしてそれを英断して頂いた長谷川会長に感謝申し上げます。

内容に関しましては祝辞、歴代会長寄稿、これまでの活動を年表で網羅し、特別企画として三老師に青年僧時代をインタビューするという内容で、

表紙も含めこれまでにない特別な記念誌となったと感じております。

広報編集委員会の皆さまには記事おこしから、写真の選定等々、吉田委員長が陣頭を取り、よく纏めて頂きました。

祝賀会では当日の司会進行と上映したスライドショーを作成しました。スライドショーを作成するに至った経緯として、記念誌を作成するに当たり多くの方から過去の写真の提供頂きました。紙面の都合上その多くは掲載することが叶わず、せめて、その写真を使用して五十年の活動をスライドショーにまとめてみようとなり作成しました。先輩方には懐かしさと、若い会員には歴史の重さを感じて頂けたのではないかと思います。

祝賀会もお祝いの席ということもあり、終始和やかに過ごして頂けたと感じております。

この度の記念事業に携わる機縁に巡り合わせて頂きましたこと、ただただ感謝申し上げます。

〔清水大伸〕



「歴代会長を訪ねる」



宮曹青十七代会長 玄光庵御住職 伊串泰純老師

今期創立五十周年を迎えた宮曹青の歴史を訪ねるということで、その歩みを歴代会長にお伺いしインタビューを連載記事にてお届けしたいと思います。

第三回は宮曹青十七代会長 玄光庵御住職 伊串泰純老師に伺いました。

青年会には昭和に入会され、会長を務められた平成に至るまでの老師の思い出と、その時々感じた思いをお伝えいたします。

— 今期五十周年という大きな節目を越えた宮曹青ですが、伊串老師が青年会に参加された当初のお話から伺いたいと思います。その頃の会の活動としては、やはりカンポジア難民への支援活動というのが大きな比重を占めていたのでしょうか。

そう、難民支援がやっぱり一番基本だった。県民活動の衣類支援から始まって、二期の早坂会長さん時代にサンタビの黎明期を迎えて、それでも十三期の山本会長さんの頃はまだ学校の贈呈式に行っても軍隊が機関銃を持って警備をする様な現地情勢だった。十四期の時会長さんの頃にやっと落ち着いた様な印象だね。

その当時イサーン・ボン・ニーンという事業を行ったことがあって、輪王寺様で屋台村をやりながらカンポジアの舞踊と楽隊による国際交流という内容だった。この十四期は赤間直道事務局長さんで、岡崎正利事業委員長さん、私は事業副委員長を務めていて、岡崎委員長さんの下で自分と白石博祐さん、菅生俊彦さんがいた。お金をあまりかけられない都合で、江巖寺様に泊めてもらったりしてね。お風呂に入り玄光庵にも来た。そういうことをやるのが事業委員会だったんだよね。

— 続いて、災害支援ボランティア活動についてお尋ねしたいと思います。老師が青年会で活躍された時期は、奥野会長や橋会長に託して。彼らもロゴマーク作ったり、ウインドブレイカーを作ったりして、彼らは彼らでサンタビの護り方を考えてくれたし、さらにその後の会長の皆さんも、大変な中をよく繋げていってくれているな。本当にそう思うよ。

— 様々な変化を迎える時代の中で、その時々併せた活躍を続けられてきたお話を伺うことができた。それでは最後にありますが、今後の青年会の活動を引き継いでいく青年会に対してメッセージを頂戴したいと思います。

時代の変化って大変なことだからこそ、あまり偉そうなことほもちろん言えないのだけれども…。自分自身を振り返ってみても、とにかくいろいろな会に参加してもらいたい、というのは言えると思う。青年会やそれ以外の会であつてもね。今は個の時代だから、仲のいいグループで集まって、というのもあるだろうと思うけれど、青年会も含め色々な会に出て行って懇親会の席にも参加して、自分の世界を広げてもらいたい。個の時代だからこそ、広い繋がりが重要だと思ふんだよね。そういつた機会に「私〇〇です」って挨拶して回れば、お寺同士だし、お師匠様も青年会に参加している世代の方が多いたろうから、「ああ、〇〇さんだね。私も昔ね…」という話題が生まれるかもしれないし、自分でも思ってもみなかった様なつながりを知るかもしれない。ぜひ若い方々にもそうやって縁を育んでいってほしいね。

あとは硬すぎず、っていうことも大事にしてほしいと思う。みんな懸命に活動に取り組んでいるからだろうけれど、ストイックにやったり、しつかりしようとするどうしても堅苦しくなっていくものだよ。しかもそういうやり方のほうが、やっぱり格好良く見えるものだろう。

れた時期は、災害対策やボランティア活動へ社会の関心が寄せられ始めた時期でもありました。

あの時は、とにかく社会全体がボランティアに目覚めた時期だった。自分は全曹青への出向をしていた時期だけれど、現地支援を申し出る数々の団体の中でも宮曹青は割合早めに活動していたように思う。我妻老師・阿部老師がSVAの理事をされていたのも一つの繋がりで、それはいくつかの内の一つだけれども、支援のネットワークや活動の蓄積があつた為だろうね。そういう繋がりが情報収集できていた為に、会の方でも「現地に行ける人間は行ってくれ」と活動をプッシュする事ができた。

— カンポジア難民支援活動での経験や全曹青といった関わりがあつたから、支援が実際に形になって迅速な活動へ展開していったんですね。

それと、平成八年の夏に岡崎さんの繋がりがあつて、被災後に仮設商店街ができた象徴的な地区だけれど、「賑わいのあつた長田区に再び賑わいを取り戻したいから何か起爆剤になるようなお祭りしたい。」というお願いだった。その一つに七夕という案が出て。資金はバザーなどを活用して集めて、七夕飾りは仙台では八月に使うから時間的な都合で、古川の七夕を十本くらい頂いて、飾り付け方も教わつてね。仮設商店街と、御蔵北公園という場所それぞれに自分たちで七夕を飾つた。それが、神戸新聞の一面に「仙台七夕が神戸の空に舞う」という形で掲載されたなんてこともあつた。

— 色々な出来事・事業を経験されて、いよいよ

うし。でも泥臭さだったり、アットホームな雰囲気というの、例えば傾聴活動のように人の輪に入っていくときにはとても大切な事だと思ふ。これまでの活動をさらに展開していく、今まであつた枠をまた一つ越えていくためには、そういう堅苦しさだけではなく、「情」のようなパワーがどうしても必要なんだよね。だからこそ、人間味を持った青年会であつてもらいたい、それが一番だと私は思っているからね。

— 貴重なお話、また暖かいメッセージを頂戴いたしました。ありがとうございます。

インタビューをしていて、その話し振りからは活動の中大変な事でも、自分たちは楽しみながら活動を続けていたという事が伝わってくるような、とても印象に残るお話を頂戴できました。

— 今期の無聖と、五十周年の記念誌では青年会の先輩であられる諸老師の皆さまに当時の思い出や、今の青年会へのメッセージを頂戴してまいりました。皆さま快く取材に応じて頂くことができ、誠に有難いことと感ずるとともに、皆さまが青年会に抱く期待といったものが伝わってまいりました。

— 取材を受けていただきました諸老師の皆さまへの感謝とともに、今期の連載を読んでいただき、皆様の感謝を申し上げます。誠に有難うございました。

会長なられた訳ですが、会長時代に一番記憶に残るエピソードというものはありますか？

（記念誌を見ながら）色々やっているね、改めて見ると（笑）。いっぱい記憶にあるけれど、その中でもカンポジアフェアで色々趣向を凝らしたのが思い出深いかな。

開催場所が丸善から藤崎に替わつたのが、確か志水会長さんの二年目の時じゃないかな。場所が場所だから人はいっぱい来るけれど、チアシを配つたりしてもなかなか足を止めてもらえなくてね。普通に呼び止めてもせつかくの人の多さが活用しきれない、じゃあ、私の時はもうちょっと違うことをしようと考えた。その頃、SVAの方と色々話をする中で「またま、お茶が余ってるんだけど、これ何か活用できませんか？」って話があつて、それがハイビスカスティーだったんだよ。山のように余っているから、このままだと駄目なるだけだし、安く、原価でおろしますって申し出があつて、それを活用して「お

茶どうですか？」ってお声がけしようと考えた。その時期に「ちよボラ」っていう言葉が流行つたんだけど、ACとかNHKのコマーシャルでね。ちよボラとしたボランティアを略して「ちよボラ」って言うんだ。それをもじって、「茶ボラ」って名づけてね。

「茶ボラ」が上手くいったのが、お茶を飲んで色々見てくれるようになって、クラフトも買って頂けるようになったのもあつたし、初めは知らなかつたけれどもハイビスカスティーって美容効果があつたんだよね。一月の後半は寒い時期だから、少し濃いめの熱いお茶がとて喜ばれた。そういう種類のお茶がまだ珍しい頃だったし、美味しくて評判もあつて、「このお茶下さい」として申し出をどんどん受けてね。何の気なしに原価で仕入れた二百袋のお茶が飛ぶように売れたから、追加もして結局五百袋だったか七百袋だったか、とにかくお茶の売り上げだけでも支援事業の収益としてとても大きかった。そうしたら、次の年もまたSVAさんが、「じゃあ伊串さん今度は別のお茶はどう？」ってなつたね。

自分が会長を務めた時期は、「茶ボラ」がとて良い事業になって運営が助かつたね。さらにお茶を出しているのなら、という事でホシヤマ珈琲さんからも協力のお申し出を頂いたりして、とにかく色々な工夫を考えて、やってみたらみただ、思いもよらないことも沢山あつたから、とても印象的な事業だった。

その一方で私が会長を務めていた時期には、支援の柱の一つである書き損じハガキの収集の数も、既に目減りし始めていたように思う。メールの普及とともに書き損じのハガキは少なくなっていくというの分かつていたから。

何か教育支援を続けていって欲しいという思いがあつて、自分もそうだったけれど何とか頑



平成三十一年度会員大会報告書

(平成三十一年二月二十日開催)

第一部では、鈴木岩弓先生より「イエスキング時代の死者、生者、そして寺」と題した講演をいただきました。講演の中には消滅可能性都市、また消滅可能性都市に存在する宗教法人のデータ等、少なからず衝撃を受ける内容もございました。その他、イ工制度、墓石の話等内容は多岐に渡り、これから曹洞宗を担っていく人ならばならない我々宗侶のみならず、ご参加いただいた特別会員の皆様にも大変示唆に富んだ講演となりましたことをご報告申し上げます。

事務局長 千田 祥幹

第二部ボウリング大会は、大会直前のキャンセルが相次いだものの、例年と変わらぬ大勢の会員様にご参加をいただきました。一投一投に歓声と感嘆の声が沸き上がり、和気藹々とした雰囲気の中進めることができました。チャリティー募金にも多大な寄与を頂き、何事もなく大会を終えることが出来ました。

第三部懇親会・ボウリング大会表彰式においては、第二部からの雰囲気もあり、会員相互の親睦もより一層深まり、盛会のうちに終えたことをご報告申し上げます。

交流事業委員長 八巻 英成



第二十五期 移動研修会報告書

今期の移動研修会は、正会員十八名のご参加をいただき、徳島香川愛媛の四国方面を研修させていただきました。

初日の徳島市では、丈六寺様に拝登、研修させていただきました。丈六寺様は、四国においても最も歴史の古い寺院の一つであり、且つ古い時代の様々なものが現存する非常に珍しい寺院ということでした。その為、現在も京都大学をはじめ、様々な研究機関による調査が進行中とのことでした。室町時代に曹洞宗寺院となつてからも、歴代領主の菩提寺として大切に守られており、明治大正期には宗門の専門僧堂としての役割も果たしていたとのことでした。古いながらも整然と並ぶ伽藍と、古風薫る雰囲気、自然と襟を正される感覚を覚えました。丈六寺の豊田ご住職様には、隔々までご案内ご説明をいただき、恐縮の至りでした。

二日目は、まず香川県にて金毘羅宮を拝登参拝し、日本における古来よりの信仰風習、そしてその伝統の護持に関わる努力の端に触れさせていただきました。

その後、愛媛県に入り、瑞応寺専門僧堂に拝登させていただきました。法堂にて拝登調経・豪雨被災者供養の後、諸堂拜観。引き続き、檜崎通元堂頭老師に親しく添茶を頂戴し、ありがたいお言葉をいただきました。

現代宗門においても特に古風を慕う修行道場は、どのようになっているのか、またどのような先達とその家風を伝えてこられたのか、そのことに想いを廻らすことを以て意義のある研修となりました。

この度の研修におきましては、自分たちのおかれた状況とは違った風土、歴史に紡がれた寺院、また信仰の場所、文化慣習に触れることにより、改めて自らの立ち位置を見極め、日常の勤めに精進する機縁を作れたのではないかと思います。

最後に、今回の移動研修を無事に終えられたことに際し、ご参加ご協力いただいた皆様に感謝と御礼を申し上げます。報告に代えさせていただきます。



丈六寺にて



瑞応寺専門僧堂にて

宮曹青主管 カンボジア教育支援活動 サンタピアップみやぎボランティア会

「カンボジアフェア in SELVA」開催報告

- 日時：平成三十一年十一月十一日～十四日
- 会場：仙台市泉区中央「SELVA」二階
- 来場者：約二〇〇名(三日間延べ)
- スタッフ 四十八名 (三日間延べ)

ご来場の方には、ホシヤマ珈琲店様提供の美味しい珈琲を飲みながら、小学校贈呈式の様子などの映像もご覧いただきました。

クラフト販売：売上合計 62,509円
募金：募金合計 72,316円
書き損じはがき・未使用切手など：沢山

「カンボジアフェア in 藤崎」開催報告

- 本年より藤崎様でもカンボジアフェアを行いました。ご来場の方にはセルバ様の時と同様にホシヤマ珈琲店様提供の美味しい珈琲をお渡しいたしました。
- 日時：平成三十一年一月二十三日～二十五日
- 会場：仙台市青葉区一番町「藤崎」街頭アーケード内
- 来場者：約四二〇名(三日間延べ)
- スタッフ 五十八名 (三日間延べ)



クラフト販売：売上合計 163,967円
募金：募金合計 96,248円
書き損じはがき・未使用切手など：沢山

各イベント等での活動(サンタピアップブース設置)

- 各会場にて活動紹介・カンボジアパネル展示・クラフト販売・募金活動などをさせて頂きました。
- 金蔵寺第4回寺フェス 平成三十一年六月十七日、於 石巻市金蔵寺
- カンボジア教育支援チャリティバザー 平成三十一年九月十日、於 富谷市成田公民館
- 寺族会研修会 平成三十一年九月二十八日、於 曹洞宗宮城県宗務所
- 宮城県梅花流奉詠大会 平成三十一年十月五日、於 仙台サンプラザホール
- 第四十三回曹洞宗青年会 東北地方集會山形大会 平成三十一年十一月十二日、於 山形県山形テルサテルサホール



「ハガキリサイクルキャンペーン」中間報告

この一年間で皆様に収集頂いた書き損じハガキと切手の集計作業を行いました。全国の御支援者様より沢山の提供を頂き誠に有難うございます。

●日時：平成三十一年二月二十五日～二十六日

- 会場：サンタピアップ事務局
- 集計作業：参加三十九名(二日間)
- 皆様からお寄せ頂いた書き損じハガキや切手は、新しいハガキや切手に変えて 県内御寺院様や団体企業様にご購入頂き、その売り上げをカンボジア教育支援費として活用させて頂きました。

【集計結果】
書き損じはがき：合計 22,234枚
切手 合計 9,333枚
(額面換算 計 476,135円)

「オリジナルカレンダー2019」並びに「カンボジア教育支援写経」販売中

今年度もカレンダーと写経用紙を販売いたしました。カレンダーはお陰様で無事完売となりました。写経につきましては通年事業として今後も販売を続けてまいります。各事業収益とも教育支援費として活用させていただきます。

カレンダー制作販売数 3,106部 (一部300円)
売上合計 931,800円
カンボジア教育支援写経 制作販売数 756部 (一部300円)
売上合計 226,800円



書き損じハガキ・切手の送り先

〒九八一一三二二一 仙台市泉区根白石町東五
泉根白石郵便局留「サンタピアップ」宛

支援金の送り先

郵便振替口座
名義 サンタピアップみやぎボランティア会
口座番号 02290-6-48744

サンタピアップ事務局

〒九八一一三二二一 仙台市泉区根白石町西上二七 満興寺内
TEL 〇二二(三七六)三九二〇(専用)
FAX 〇二二(三七九)四九五七
メールアドレス info@santapi.com
ホームページ http://www.santapi.com/



事務局だより

◎平成三十一年度 年次総会

平成三十一年十二月十九日(水)ホテルグランテラス仙台台国分町を会場に平成三十一年度 年次総会が開催されました。

議長には第十二教区建立寺 坂本頭一師が選任され審議事項として先般の理事会にて承認された「第二十六期三役人事案」について、第二十六期会長として第一教区清涼寺神作紹道師を長谷川会長より上程、審議の結果、満場一致にて神作師が選任されました。

その後、神作師が副会長三名・監事三名の人事案を読み上げ、上程審議の結果満場一致にて承認されました。

・会 長

第一教区 清涼寺 神作 紹道

・副会長

第四教区 圓滿寺 館寺 規弘

第十四教区 大慈寺 高橋 信弘

第二十一教区

洞雲寺 千田 祥幹

・監 事

第一教区

金剛寺 根本 秀逸

第二教区

国分尼寺 小枝 誠智

第十三教区

多福院 三輪 宗俊



題名 「境内の猫たち」

「サバトラは、毎日来ては庭先でブラブラしています。やがて野良のメス猫を連れて来るようになりました。なかなか懐かないメス猫をやっと手懐け、病院で無闇に増えないように処置してもらおうという頃には既に遅く、お腹が大きくなっていました。あつと言う間に三匹の仔猫が生まれ、敵だった猫の嫁と三匹の息子をお供わせています。サバトラにはいつぱい食わされました。 終」

第八教区皆伝寺内 天野宏心



今後の予定

◎四月十九日(金)

平成三十一年度定例総会・合同委員会
於 秋保 岩沼屋

◎四月二十六日(金)

全日仏青仏法興隆花まつり千僧法要
於 奈良 東大寺

◎五月十五日(水)

全国曹洞宗青年会中央研修会・定期総会
於 東京グランドホテル

編集後記

広報編集委員長に任命されて、当初はホームページ管理？無聖の発行？一体どうすればいいのかと思いつつも、委員会の皆様のおかげで無事に終わりを迎えようとしております。

記念誌に関しても、写真集・インタビュー・編集と長谷川会長・清水副会長と共に委員とコツコツ行った事も思い出に残ります。

平成最後の無聖を発行するに当たっては、タイミングよく委員長になったなあと思いつつも、タイピングよく委員の皆様が青年会活動を通してよい思い出が残って行く事を願いながら編集後記とさせていただきます。

〔広報編集委員長 吉田義弘〕



表紙写真

宮城県曹洞宗青年会
創立50周年記念祝賀会



無聖 第78号 (平成31年3月31日発行)

表紙題字 宗務所長 三田村道雄 老師
編 集 宮城県曹洞宗青年会
発 行 人 長谷川俊昭
事 務 局 宮城県仙台市泉区
山の寺2-3-1洞雲寺内
T E L 090-2849-3830 (専用)
F A X 022-372-3427
U R L <http://miya-sousei.com>
E-mail info@miya-sousei.com